



二次元コードから
閲覧可能です。

若者層に 将来の 夢や希望を描かせる!!

文部科学省は、「義務教育の在り方ワーキンググループ」の審議まとめ(令和6年12月)の「義務教育の意義を踏まえたこれからの学校教育の在り方に関する基本的な考え方」で、日本型学校教育の「強み」を、誇りをもって一層伸ばすと同時に、「弱み」を次のように捉え、補うという視点の重要性を述べています。「…全員を同じ“正解”に導くことを目指し、過度に同調圧力を高めている傾向があること。…子供たちの幸福度は世界と比べ低く、自己肯定感や自己有用感、自ら未来を切り拓いていく力や意識を高めていく必要があること。」

本号では、「地域連携教育」について、岩国 YMCA 保健看護専門学校 保健看護学科 1 年生対象に行った講義における学生の声を紹介します。 ※ 学生は、地域連携教育を小中高と体験しています。

学生から見た 地域連携教育の魅力や心に残る活動とは!

【講義の内容】① 地域連携教育って 何? ② 何をするの? ③ どのように進めるの?

④ これからの地域連携教育の 向かう方向とは? <受講生は 29 人 アンケート回収率 100%>



日本人は自己肯定感が低く、自分もその中の一人だと思っていたけれど、先生に「そんなことはない!」と励まされ自信ができました。覚えていないだけで、実は小さい頃から、地域の人たちといっぱい関わって支えてきてもらったんだと、今になって思いました。しっかり感謝したいです。看護師・保健師になり、地域の方たちを支えていく立場になり、より良い地域をつくるために貢献できればと思いました。<学生>



グループワークで、活動の写真を分類しました。子供も含め地域のたくさんの人が話し合い、意見を述べ合う場面があるのは本当に大切だと思います。<学生>



昔、いろいろな体験をした時「何か楽しいことができる。」という気持ちでしたが、まさかこんなに自分の成長につながっているとは、とても驚きでした。小学校4年生の時に“そろばん”を地域の人に教えていただく授業がきっかけで、4年間通い続けて一段まで取得できました。今も自信になっています。<学生>

ゆかたの着付けや魚のさばき方、点字など今後の人生に大切なものだけど、学校では学べないものばかりで地域の人へのありがたみを感じました。<学生>



コミュニティ・スクールは、子供たちの生活や成長に重要な役割を持っていると同時に、若い世代から高齢者まで、幅広い人々をつなげて、地域を元気にすることができると感じた。私たち一人一人は小さいけれど、できることから参加できるようにしたいと思う。<学生>

自分にはない異質な人との出会い、経験したことのないことを経験することで、新しい発見・感動・心地よさを味わうことができると感じた。今まで自己肯定感が低いと思って生きてきたつもりだったけれど、この授業で自己肯定感を深めていけたかなと感じたし、自己肯定感が深まることで、他者肯定感も自然と生まれたなと思った。併せて、自分の地域の良さに改めて気付くことができたと思う。社会に出て看護師となれたら、地域に何か還元していける、そんな人になりたいと思う。<学生>



19 歳前後の学生が、目を輝かせ、自分の体験や思いを語り合っていました。地域と学校が連携・協働した活動が、VUCA(ブーカ)時代<変動性、不確実性、複雑性、曖昧性>を生き抜く力になっていると感じました。若者層が将来に対して夢や希望を描くことのできる社会の実現が、地域連携教育の役割の一つです。

